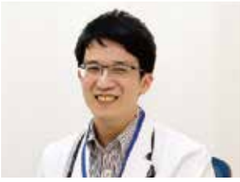
県立広島病院広報誌
もみじ
第181号
2024.3.1
発行

県立広島病院 ☎082-254-1818（代）
〒734-8530 広島市南区宇品神田1丁目5番54号

理念：患者さんの権利を尊重し、県民に信頼される病院をめざします。

連携医院のご紹介

今回は、診療と内視鏡検査を両立されている、『おんじ内科クリニック』の薩地 啓市（おんじ けいいち）院長にお話しを伺いました。


薩地院長

おんじ内科クリニック

〒736-0042
広島県安芸郡海田町南大正町3-25
電　話／082-516-5316
H　P／https://www.onji-naika.com
院 長／薩地 啓市
診療科目／内科、消化器内科、内視鏡内科

外観

ロゴ

内視鏡室

○開業されてから今までのことを教えてください。

広島市西区で幼少期を過ごし、中学からは福山で学びました。その後、福岡大学医学部を卒業後、広島大学医学部附属病院・東広島医療センター・呉市医師会病院等で内視鏡内科を中心に経験を積み、2021年4月より広島県安芸郡海田町で、おんじ内科クリニックを開業いたしました。コロナ禍での開業であったため、ワクチン接種などにも力を注ぎました。また、内視鏡検査は、病気を診断すると同時に治療まで完結できていたことから、その達成感に強く惹かれ、現在も診察・検査・治療と幅広く診療しております。

○クリニックの特徴を教えてください。

当クリニックでは、できる限り痛みのない、苦しくない内視鏡を目指しています。内視鏡と聞くと、痛い、辛いといったイメージを持たれる方もおられると思います。少しでもイメージを良くするために、患者さまに楽に内視鏡を受けていただけるように考えています。当院のスタッフとともに、胃内視鏡検査を一日2～3件、大腸内視鏡検査を一日1～2件行っています。なお、当クリニックでは患者さま用の内視鏡モニターも設置しております。鎮静剤を使用しない場合は、患者さま自身がモニターを確認しながら検査を行うことも可能です。発熱や咳といった風邪症状から、目のかゆみ・くしゃみや鼻水などのアレルギー症状、胃もたれ・ムカムカ・吐き気や腹痛などの消化器症状、喘息などの呼吸器症状、内科全般を地域の「かかりつけ医」として診察しています。

○毎日の診療で大切にされている事や、やりがいは？

患者さまの話しを聞く、丁寧な対応、向かい合って診察を行う事を心がけています。何気ない患者さまとの会話から病気を発見することもあります。ご家族のことや、ご近所のことなど教えていただく事もたくさんあります。患者さまから、「ありがとう」と感謝していただけることが励みとなっております。

○県病院はどんなところですか。

県病院 内視鏡内科の佐野村先生や、東山先生とは世代が近くいつもお世話になっています。特に消化器内視鏡外科主任部長の池田先生は、広島大学病院時代に教えていただく事も多く、とてもお世話になりました。救急を要する患者さまにいつも快く対応していただき感謝しています。専門的な診察が必要な際には、患者さまやご家族に、ご相談のうえご紹介させていただいています。がん患者さまの手術後のフォローでも連携をさせていただいています。これからもよろしくお願いいたします。

○最近のトピックスについて

可能な限り安全に楽に検査ができるよう、眠くなる注射を行って、うとうとしている間にできる内視鏡、さらに検査前の準備から検査・回復室まで、患者さまが横になったまま移動できるリクライニングベッドを採用しています。検査準備の時も、安心してお待ちいただけるトイレ付きの個室をご用意しています。糖尿病をはじめ、メタボリックシンドローム・肥満症・高血圧症・脂質異常症（高脂血症）・高尿酸血症・脂肪肝など、生活習慣病の診療や早期発見にも力を入れております。健診で生活習慣病を指摘された方、内服薬開始の前にまず生活習慣を見直してみたい方、内服薬などで治療を開始・継続されたい方は、ぜひお気軽にご相談ください。

【取材後記】
休診日の水曜日にわざわざ時間を取っていただき、優しく丁寧に対応してくださいました。多くの情報が患者さまに伝わるよう、院長先生手作りのクリニック紹介動画が、待合室のモニターに流れていました。細部まで、患者さんのために考えられていると感じました。

県立広島病院からのお知らせ

3月のがんサロン

- 開催日時　令和6年3月13日(水)14:00～15:00
- 場　所　新東棟2階 研修室 及び オンライン
- テーマ　話してみませんか？
  がん療養中のちょっと気になること
- 講　師　臨床腫瘍科 主任部長 / 篠崎 勝則 医師
  広島県がんピアサポーター
- 対　象　がんを経験された方やそのご家族
  （当院受診歴不問）
- 問合せ先　がん相談支援センター　☎082-256-3561
- 参加申込　詳しくは当院HPをご参照ください

がん医療従事者研修会

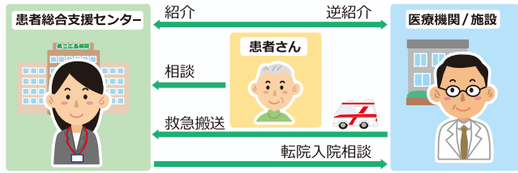
- 開催日時　令和6年3月12日(火)18:00～19:30
- 場　所　県立広島病院 中央棟2階 講堂 及び ZOOM 開催
- テーマ　『小児・AYA世代のがん患者等に対する妊孕制温存療法』
- 演　者　生殖医療科 主任部長 / 兒玉 尚志
  地域連携室 看護専門員 / 迎川 ゆき
  生殖医療科外来 看護専門員 / 植田 彩
- 対　象　医療従事者及びその関係者
- 問合せ先　総務課管理係（担当 / 石岡）
  ☎082-254-1818（内線 /4271）
- 参加申込　詳しくは当院HPをご参照ください

患者総合支援センター

教えてDr（ドクター）72 紹介します！ 患者総合支援センター

患者総合支援センター長
消化器内科主任部長
北本（きたもと） 幹也（みきや）

当院の『患者総合支援センター』は、かかりつけ医等の医療機関との連携を通して患者さんに最適な医療を提供するための「地域との窓口」です。外来受診から入院、逆紹介まで、ご紹介いただいた患者さん一人ひとりの病状などに応じた、きめ細かい患者支援を行っています。



入院支援・退院支援

多くの方は1入院1目的の予定入院であり、あらかじめ計画した通りに入院検査あるいは治療を行うパスで運用されることが多くなっています。当センターでは入院予定患者に対して入院前に支援を行っています。その場では、あたかも○泊○日行程のツアー旅行に参加する様に、事細かく入院の日程について説明を聞くことができます。当院は急性期病院なので、各疾患別の入院期間の目安が国から示されております。また、退院支援では、円滑に退院していただけるよう入院患者を支援しています。特に緊急入院された患者さんは、突然の病状を理解することや、行われる治療への理解が第一ですが、病状が一段落した後に、直接自宅へ退院することが困難な場合があり、戸惑われることもあります。その場合には、転院を手配することになるのですが、患者一人では決められないことも多く、家族関係を考慮しなければいけないなど、難しい事情を抱える患者さんには、医療ソーシャルワーカーを含むスタッフで対応しています。予定通りに目的の医療行為が行われた場合には退院日が決まっていることや、緊急入院であっても、その疾患別に退院日の目安があることをご理解ください。

紹介患者の予約

初診患者の紹介 FAX を受け、できるだけ早い期日で各診療科の予約日を決定しています。当日の予約や入院に関することは、各診療科に直接連絡することになっています。

がん地域連携パス

胃がん、大腸がん、肺がん、肝がん、乳がん、前立腺がん、の治療後の患者さんを紹介医と当院の担当医が連携して経過観察する仕組みとして、がん地域連携パスを導入しています。そのパスには、紹介医と当院の担当医が行う予定の検査が示されており、重複したり欠損しないように配慮されています。

パスとは 病気の治療計画表を作成し、専門的な治療を行う病院とかかりつけ医（連携医療機関）が病院の機能（得意分野）に応じて役割分担することで、患者さんの状態を総合的に管理します。専門的な治療を行った後に、定期的にかかりつけ医で診察、投薬や検査を行うことで、患者さんに切れ目なく医療が提供できるよう支えていく仕組みです。

がん相談支援

がん相談支援では、治療費の支払いに関する相談や治療と仕事の両立支援にも応じています。

患者総合支援センター相談窓口

以上のように当センターは患者さんを支援する様々な役割を担当しております。受け止めによっては、外来から次は何番です、次は検査ですなどと、たらい回しされている印象を持つ人もおられるかもしれませんが、病院が多機能化した結果、中央部門的な役割を当センターに集約していることをご理解ください。そうすることで、専門性の高い担当者が皆様に対応できていることになっていると思います。すべては、「患者さんのために」の思いで活動しております。

次ページに続きます→

教えて Dr 72

連携病院への御礼とお願い

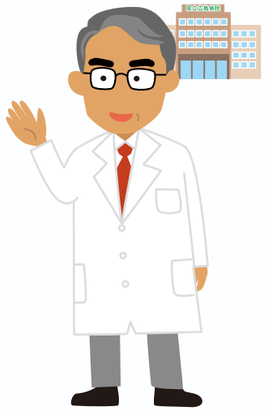
当院からの紹介で転院を引き受けていただいている病院の皆様には感謝しています。特にコロナ禍での転院患者を引き受けていただき、本当にありがとうございました。その時には通常の救急に加えて、県からの要請でコロナ中等症・重症患者を受け入れており、当院が機能不全に陥る寸前でした。それら患者の高齢化も著明で、自宅退院できる人の方が少ない状況が続いておりましたが、順次転院を引き受けていただいたことで、ほとんど断ることなく救急患者やコロナ患者の入院対応を継続することができました。連携していただいた病院の皆様には深く感謝申し上げます。

当院で救急対応し、軽症と思われた患者さんを、直接入院対応いただくことをいくつかの病院ですでに行っていただいておりますが、これからも引き続きよろしくお願いいたします。

速やかに転院調整をするために、退院目途が立たないうちから紹介状を FAX するようにしておりますが、転院決定日前に何らかの病状変化があり、ご迷惑をおかけすることがあったと思います。対応していただいている連携病院の皆様にお詫び申し上げます。当初の紹介状だけでなく、転院日に持参する紹介状には何らかの病状変化があれば、追記するよう医師に指示しておりますので、よろしくお願いいたします。

最後に、私は 2001 年に当院に赴任し、肝疾患を担当し、幾多の患者さんを紹介いただき、ありがとうございました。ウイルス肝炎に対する治療がインターフェロン主体だったこともあり、開業医の皆様と連携いただいて治療を行い、外来も入院もかなり忙しかったことを思い出します。それがウイルス肝炎の治療法の進歩により内服薬主体となり、私の仕事が明らかに減少していることが当時の木矢院長に見つかり、南区医師会副会長に指名され、２期４年を務めました。その後、2019 年から患者総合支援センター長となり「県立病院が営業にくる時代になったのですよ」と言って病院訪問に出かけておりました。これからも顔の見える関係を継続し、県立広島病院をよろしくお願いいたします。

私の後任は、2022 年 11 月に相方 浩先生が赴任しており、すでに引き継ぎを行っておりますので、肝疾患患者の紹介は相方先生にお願いいたします。23 年間ありがとうございました。



外科医の独り言…no.149

― 霊体験 ―

能登地震が発生して 1 か月以上が経過しました。過去の大きな災害と比較しても広範囲に建物が倒壊し、電気や水道などのライフラインの復旧が遅れていると聞きます。一日も早い復旧を心から祈っております。病院では、建物や器材の損傷がありながら、入院患者の受入れを縮小しつつも外来を再開している所もあるようです。一方で、職員の中には自宅が全半壊して生活基盤を失い、病院に寝泊まりしながら、あるいは避難所から通勤して勤務している方も多くおられると聞きました。生活基盤が整備できるまでは被災地への継続的な医療支援が必要です。

そうした中で、東日本大震災で家族を失った人たちの不思議な体験を記録した「魂でもいいから、そばにいて　3・11 後の霊体験を聞く」を知る機会がありました。その中に兄を津波で亡くした妹の不思議な体験が書かれていました。兄は筋萎縮性側索硬化症という病気で入院していましたが、震災当日の３月 11 日は自宅に一時退院した日だったそうです。遺体が確認されたのは震災から約３か月半後で、津波で流された母屋の中から見つかったそうです。妹が役場で死亡届を書いているときにメールの着信音が鳴り、死亡届を書き終えて提出したあとにメールを開いて確認したところ、亡くなった兄から「ありがとう」のひと言だけ書かれていたそうです。そして翌日葬儀に参加した兄の親しい友人たちに兄からの最後のメールを見せようと携帯を開いたところ、そのメールは消えていたそうです。

通常霊体験と言えば、怖い、恐ろしいというネガティブなイメージを想像しがちですが、どちらかと言えばこれから前向きになれるような不思議な体験だったのではないでしょうか。ある精神科の先生の話によると、被災者の心のあり方によっては「見えざるものが見える」ことがありうるとのことで、精神医学で言えば、脳内伝達物質のドーパミンが過剰に分泌されることで、幻聴や幻視などの異常体験を引き起こすことがあるそうです。

実は、災害とは無関係ですが、私の近しい人も霊体験？をしたそうです。とある病院で当直していた S 先生に、A 病棟から PHS に電話がかかってきました。担当の B 看護師さんによると、外科の患者さんが腹痛を訴えているので診察してほしいとのことでした。A 病棟に外科患者さんが入院することはないので違和感を憶えたようですが、S 先生は患者の診察を終え、特に心配なさそうなので痛み止めの指示だけ出して救急外来に戻ろうとしました。その時 B 看護師さんから「S 先生、私今から先ほど亡くなられた患者さんを霊安室に安置してさしあげなければならないのですが一緒に付いて行ってもらえますか？」と頼まれました。S 先生は救急外来に戻らなければならなかったので、近くを通りかかった顔見知りの守衛さんに B 看護師さんのお手伝いをお願いして救急外来に戻りました。S 先生はそれから数人急患を診て当直室で眠りにつきました。翌朝、目が覚めた S 先生は、昨日の腹痛の患者さんが気になり、A 病棟の病室を訪れたところ、その患者さんは居ませんでした。不審に思った S 先生は詰所に戻り看護師さんに聞いたところ、そのような患者さんは A 病棟には入院していないこと、昨夜は A 病棟から S 先生に電話をかけていないこと、B 看護師は１年以上前にすでに亡くなっていたこと、そして顔見知りの守衛さんも昨夜は S 先生と会っていない、と言っていたそうです。S 先生は、最近忙しく寝不足でもあり、夢でも見たのかなぁと半信半疑でしたが、PHS の履歴には呼ばれた時間とともに A 病棟の電話番号が残っていたそうです。この霊体験は、S 先生の働き過ぎを心配する警告だったのかもしれません。

院長／板本　敏行

1月20日（土）～21日（日）「ALSO (Advanced Life Support in Obstetrics) プロバイダーコース」開催

県内の周産母子センターなどの医療従事者（助産師、看護師及び産婦人科医）を対象として、ALSO プロバイダーコースを開催しました。新型コロナの影響により、当院での開催は４年ぶり２回目となります。講師は、コースディレクター牧尉太先生（岡山大学産婦人科）等計 19 名、受講生は、広島県及び岡山県の８病院から計 20 名（助産師 17 名、産科医３名）が参加されました。ALSO とは、医師やその他の医療プロバイダーが、周産期救急に効果的に対処できる知識や能力を発展・維持するための教育コースです。妊娠ケアにおける安全性、補助経腟分娩、肩甲難産、臍帯脱出、妊娠後期の性器出血、骨盤位、羊水塞栓、分娩時胎児監視症例、分娩時産科危機的出血等について、グループワークにより講習と資格試験を行いました。

早速、当院でも分娩監視のグループワークを取り入れ、参加病棟で開始しております。石川県七尾市にある NPO 法人周生期医療支援機構から、研修資料、物品の提供を受けて実施するため、１月１日に能登半島地震の発生の影響で開催が危ぶまれましたが、無事実施できました。当院は、総合周産期母子医療センターとして、今後も毎年開催していく予定としております。

ワンポイント 脳心臓血管カンファレンス

脳心臓血管センター長／上田 浩徳

潰瘍を伴う頸動脈プラークについて

【脳神経外科・脳血管内治療科／下永　皓司】

頸動脈狭窄症の外科的治療の第一の適応基準は狭窄率（細さ）でありますが、実臨床では細さに関係なく、プラーク（アテローム硬化性病変）の性質の方がより脳梗塞発症に重要となることがあります。

頸動脈プラーク内の出血した血腫や脂質が破綻して出来た陥凹である潰瘍は、潰瘍内に血栓ができやすいことから、脳神経学的症候化や脳梗塞再発に関係する画像診断上のイメージマーカーとされています。しかし、全ての頸動脈プラークの潰瘍病変が症候化するわけではないこともわかっています。

今回、頸動脈プラークにおける潰瘍形成の部位が、心臓側（Proximal）か頭側（Distal）かによって虚血イベント（症候）に違いがあるかを頸動脈エコー又はCTアンギオにて検討しました。

結果、潰瘍が Distal に局在する場合は症候を生じやすいことがわかり、Distal 潰瘍を伴う頸動脈プラークは要注意プラークの一つとして注目しています。

頸動脈エコー検査は非侵襲的に行える検査であり、当院でも積極的に行っています。